

日本保健医療社会学会ニューズレター (No. 99) 2015/10/30

目次

1. 第 42 回大会案内
2. 関西定例研究会 報告・案内
3. 看護・ケア研究部会 報告・案内
4. 平成 27 年度第 2 回理事会報告
5. 平成 27-28 年度評議員の紹介
6. 編集委員会報告
7. 学会広報の今後のあり方
8. 編集後記

---

## 1. 第 42 回大会案内

第 42 回日本保健医療社会学会大会長 蘭<sup>(あららぎ)</sup> 由岐子 (追手門学院大学社会学部)

### 1) ご挨拶

2016 年 5 月 14 日 (土)、15 日 (日) に追手門学院大学 (大阪府茨木市) にて、第 42 回大会を開催いたします。

本学は、茨木市郊外にあるため、道路状況にもよりますが、最寄り駅の JR 茨木駅および阪急茨木市駅からバス等で 20~40 分の時間を要します。14 日の土曜日は授業開講日ですのでスクールバスがありますが、日曜日は路線バスの阪急バスを利用していただくことになります。他方、駐車場が完備されておりますので自家用車でお越しいただくことができます。アクセスの点で少々ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。(詳細な交通案内は大会ウェブサイトに掲載いたします。)

さて、本大会のテーマは、「問題経験のナラティブをきく」といたしました。

保健医療社会学における「問題経験」の最たるものは、いうまでもなく、「わずらうことの問題経験」、いいかえれば「病いの経験」になりましょう。1990 年代以降、ナラティブ・セラピー論や当事者研究/当事者論の展開、さらには社会学におけるライフストーリー研究など質的調査法のひろがりから、「病いの経験」をナラティブのかたちで把握し、検討する研究が増えてきました。ナラティブの意義は、医療内部においても認められ、ナラティブ・ベイスト・メディスンが提唱されるまでになりました(もともと、日本の医療制度のもとではまだまだマイナーであることは確かですが)。

このような近年の動向をおさえたうえで、今回は、「問題」をもっと限定して、保健医療における(大文字の)「問題」をクローズアップしようと思います。すなわち、保健医療の集合的問題経験、歴史的問題を個人の「病いの経験」のナラティブを出発点として考えていこうということになります。具体的なテーマとして、薬害問題を取りあげることになりました。

薬害問題は、そのほとんどが「事件」として裁判にもちこまれ、社会の耳目を集め、被害者を救うために司法的な解決がなされました。この過程で、関与した保健医療従事者たちや政策担当者が悪者扱いされることもあったため、この問題を学会としてあらためて振り返り、理解することに、少々困難を感じる方もいらっしゃるかもしれません。が、学術的な検討は、訴訟やマスコミ報道とは異なります。「加害-被害」の文脈だけではない問題の理解の仕方や、被害

の経験をナラティブのかたちできくからこそ見えてくる多面的な問題のありようをみなさんと共有し、そして、薬害という経験を継承する方法を考え、今後の保健医療に資する機会にしたいと存じます。

蛇足ではありますが、本テーマには、「過去を忘れない」というメッセージを込めていることをお伝えしておきます。昨今の、とりわけ 2015 年秋の日本の政治のように、歴史に学ばない愚はおかしてはならないと思うからです。

以下、シンポジウムと教育講演の登壇者を紹介しておきます。各登壇者の具体的な報告タイトルにつきましては、決まり次第、大会ウェブサイト（11 月上旬開設予定）にてお知らせいたします。また、一般演題・RTD の申込の受付・〆切りにつきましても、大会ウェブサイトでご案内いたしますが、目安としましては 12 月上旬に受付開始、1 月上旬〆切り予定です。お心づもりをよろしく願います。

## 2) シンポジウム テーマ「〈薬害〉のナラティブーその共有と継承」

報告者：増山ゆかり（公益財団法人いしづえ（サリドマイド福祉センター））

本郷正武（和歌山県立医科大学）

望月眞弓（慶應義塾大学薬学部）

討論者：大西赤人（むさしのヘモフィリア友の会）

伊藤美樹子（大阪大学）

司会者：山田富秋（松山大学）

（以上、敬称略）

メインテーマに即して、集合的・歴史的な問題経験として〈薬害〉問題の経験について考えます。裁判の和解から 41 年経ったサリドマイド事件、同 20 年の薬害 HIV 事件を具体的なトピックとして取り上げ、当事者の声や研究者のナラティブを通して、一般に報道され裁判闘争で語られてきた単純な「加害－被害」図式とは異なる多様な声や視点を知り、現在も継続する〈薬害〉問題について、その経験の共有をこころみます。また、〈薬害〉問題の経験を継承するための取り組みとしての「薬害教育」の現状と課題について考えます。なお、「〈薬害〉」表記については、シンポジウム当日にも言及されることになるとは思いますが、「薬害」概念が自明なものではないこと、その検討が必要であることを示しています。

## 3) 教育講演

花井十伍（大阪 HIV 薬害訴訟原告団 代表）

（敬称略）

大会テーマ、シンポジウムテーマと連動して、薬害によって HIV に感染した血友病患者に登壇していただくことにしました。ご自身の人生についての具体的な語りをきくことで、まずは、「事件」をご存じでない方には「被害」を知っていただき、ご存じの方には「被害」を人生に織り込んだ当事者を知っていただく機会としたいと思います。哲学や社会学にも造詣の深い花井氏のナラティブがどのように展開されるのかにも、ぜひ注目していただきたいと思います。

## 2. 関西定例研究会 報告・案内

### 1) 報告

平成 27 年度第 1 回関西定例研究会が、下記要領にて 9 月 28 日（月）に大阪市立大学梅田キャンパスで開催されました。

日時：9月28日（月） 14:00～16:30

場所：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター・小セミナー室（駅前第2ビル6階）

発表者：天田城介先生（中央大学）

タイトル：「戦後日本超高齢化論——ケア労働の変容」

天田先生はここ数年の研究を、1)男性介護者、2)日本型生存保障システム、3)地方におけるケア労働、の三つに整理した上で、これらをすべて組み込んだ目下構想中の草稿の骨子を提示された。

特に焦点化されて取り上げられたのは、産業構造の変容、高齢者関連市場の拡大に伴う地方における「生き延びの女性化」（ウォーラスティン）であり、同時にそのかろうじて可能となった「生き延び」が期間限定つきのもの（人口規模の小さな地方ではすでに高齢者人口自体が減少し、市場自体の縮小が始まる）であることから、「地方における生き延びの都市化」が進行する、という見通しであった。これに対して、出席者からは、地方における女性の労働化の時期、ケアマネの役割、訪問看護の現況、ジェンダー・ポリティクスの問題などをめぐって、多岐にわたって活発な議論がなされた。

平日開催ということもあり、参加者は限られていたが、討議を通して、フィールドワークに基づいた知見に裏付けられた、地方の実情がリアルにうかがうことができ、充実した会合となった。

## 2) 案内

第2回関西定例研究会が、下記要領にて3月5日（土）に大阪市立大学梅田キャンパスにて開催されます、多数の参加をお待ちしています。

日時：2016年3月5日（土） 15:00～17:00

場所：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター・小セミナー室（駅前第2ビル6階）

テーマと報告者：

大会シンポジウム連携企画「〈薬害〉経験のナラティブをきく」

血友病患者会はどうやって問題経験を切り抜けたかー主に関西の場合

若生治友（大阪ヘモフィリア友の会）

血友病患者会全国組織の再始動

佐野竜介（ヘモフィリア友の会全国ネットワーク）

概要：次回の関西定例研究会は、第42回大会のシンポジウム「〈薬害〉のナラティブ-その共有と継承」と連携するテーマとして企画しました。若生さんからは、1990年代のHIV感染血友病患者支援の経験を、佐野さんからは、〈薬害〉経験により活動が休止された血友病患者会を束ねる全国組織が、2000年代に入り「ヘモフィリア友の会全国ネットワーク」として再始動にいたる経緯やその経験をお話いただきます。

薬害HIV事件発生から今日に至る30年あまりを血友病患者会の活動経験から振り返り、薬害経験の共有と継承をはかることを目的とします。

連絡先：伊藤美樹子（itmkk\_at\_sahs.med.osaka-u.ac.jp : \_at\_を半角@に）

（進藤理事、伊藤理事：研究活動）

### 3. 看護・ケア研究部会 案内・報告

#### 1) 看護・ケア研究部会 関東定例会共催 公開企画

看護・ケア研究部会では、関東定例会と共催で下記のように公開企画を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：「医療政策の決定過程：会議の政治学」

概要：

看護・介護従事者がとる行動は、医師をはじめとした他の専門職や患者・利用者との関係性の中で成り立っていますが、医療政策もそれに影響を及ぼす重要な要素の1つです。たとえば、公的な医療保険、介護保険のもとで提供されるケアの値段は、診療報酬や介護報酬という共通価格が定められていて、どんな行為をすると何点というふうに加算がなされています。そのため、加算対象の変更によって、ケア現場の行動様式も変化することが起こっています。

こうした医療や介護の価格設定を話し合う場が、中央社会保険医療協議会であり、社会保障審議会（介護給付費分科会）です。けれども、こうした審議会と呼ばれる会議の場と、看護・介護の現場には距離感があるのも事実です。審議会には、一体誰が参加して、どのようにして議論が進められているのでしょうか。

今回の公開企画では、行政学が専門で『会議の政治学 I, II』（慈学社）などの著書もあり、中央社会保険医療協議会の会長を務めた経験を持つ森田朗さんをお招きし、審議会の機能をはじめとした医療政策の決定過程についてご講演をいただきます。その上で、支援現場の実態と政策に詳しい小澤温さんから疑問点や論点をご提示いただき、フロアの皆さんと課題を共有していきたいと思えます。

日 時：11月28日（土）15:00～17:00

場 所：首都大学東京荒川キャンパス 講堂

講 師：森田朗さん（国立社会保障・人口問題研究所）

討論者：小澤温さん（筑波大学）

司 会：中村美鈴さん（自治医科大学）

※開催場所の地図は以下をご覧ください。

<http://www.hs.tmu.ac.jp/access.html>

※交通案内

- ・日暮里駅・西日暮里駅から 舍人ライナー「熊野前」駅下車 徒歩3分
- ・王子駅・町屋駅から 都電荒川線「熊野前」駅下車 徒歩3分
- ・田端駅から 都営バス（端44系統）「北千住駅行」に乗車  
「首都大荒川キャンパス前」下車 徒歩0分
- ・北千住駅から 都営バス（橋44系統）「駒込病院孔」に乗車  
「首都大荒川キャンパス前」下車 徒歩0分

#### 2) 看護・ケア研究部会 9月定例会報告 要旨

日 時：9月12日（土）14:00～17:00

場 所：首都大学東京荒川キャンパス 校舎棟4階463教室発表者：齋藤公子さん（立教大）

学大学院博士課程前期課程)

発表テーマ：「がん患者は〈補完代替医療〉の利用でなにを手にしたか  
—グループワークに参加する患者たちの語りから—

要旨：

今回は、がん患者当事者である発表者が、がん患者を対象としたグループワークで出会ったピア8名に対してインタビューを行い、それにもとづき執筆している修士論文の概要を報告した。

この研究はライフストーリー研究として進められてきたが、その理由や、研究目的に照らしたその妥当性について議論された。そのなかで、研究者の当事者性は研究にどのように反映されるべきかという点についても検討がなされた。

加えて、〈補完代替医療〉の使用というがん患者たちの行動をどう捉えるのかについて、掘り下げた議論がなされた。医療者か患者かなどの立場の違いにより、捉え方に違いが出るということが明らかになった。

先行研究の選択とその検討における課題、研究の意義やその結果活用における課題なども浮き彫りになった。看護学、社会学それぞれの異なった領域の研究者の参加により議論が深まり、意義深い機会となった。

3) 看護・ケア研究部会に関する問い合わせ先

看護・ケア研究部会へのお問い合わせ、入会希望者のご紹介などは、庶務までご連絡ください。メールまたは郵送・FAX で入会案内をお送りいたします。例会見学も随時受け付けております。

日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会 2014-2015 年度 役員

会長・中村美鈴、副会長・朝倉京子、会計・松繁卓哉、庶務・白瀬由美香（事務局）

e-mail: y.shirase\_at\_r.hit-u.ac.jp（看護・ケア研究部会事務局：\_at\_は半角@に）

（西村理事：研究活動）

4. 平成 27 年度第 2 回理事会報告

日時：2015 年 8 月 2 日（日） 14 時～17 時

会場：(株)国際文献社 アカデミーセンター 4 階会議室

出席者：蘭会長、清水理事、樫田理事、進藤理事、西村理事、中山理事、細田理事  
事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：石川理事、伊藤理事、田代理事

①理事会の進め方 （蘭）

蘭学会長より今後の理事会資料の作成・提出・保存、理事会 ML、交通費、理事会年間スケジュールについて説明及び確認がなされた。

今期評議員の選出について、4 月の新理事打ち合わせにおいて決定した方針に基づいた評議員リストを承認した。この議事に関連して、評議員や会員の専門分野について情報収集すべきとの意見が出され、方法等について継続審議とした。

②第 41 回大会報告・会計報告 （清水）

清水副大会長より、第 41 回大会について資料に基づき報告がなされた。業務委託費については、基本的に有意義であったが、必要に応じて内容を検討する必要があること、業務委託費が

学会より直接支払われ、大会会計を通さないため見かけ上大幅な黒字となった現状が報告され、次回大会に向けての検討事項とした。また非会員への入会案内が用意できなかったことから、今後は特別号にそうした内容を継続的に掲載するなどの提案がなされた。

③第 42 回大会の準備状況の報告 (蘭)

蘭大会長より日程、シンポジウム、会場等について報告がなされた。

④ニューズレター98号の発行 (清水)

清水理事より、近日中の発行予定であることと、次号を10月に配信予定であることが報告された。

⑤編集委員会報告 (榎田・石川)

榎田編集委員長より、編集委員会の内部規則の改正等について報告がなされた。また学会機関誌のWEB公開場所がNII-ELSからJ-stage Liteへの移行するにあたり、その方法について承認された。

⑥定例研究会の報告(関東) (田代・中山・西村)

中山理事より10月10日に孫大輔先生(東京大学)を招いて定例研究会を行う予定であることが報告された。準備ができ次第、アナウンスしていくことが伝えられた。

⑦定例研究会の報告(関西) (伊藤・進藤)

進藤理事より9月28日に天田城介会員(中央大学)を招いて定例研究会を行う予定であることが報告された。準備ができ次第、アナウンスしていくこととなった。

⑧看護・ケア研究部会報告

西村理事より次第添付資料の通り、7月11日の定例会について報告がなされた。

今年度の定例会は9月12日(土)、11月28日(土)、1月9日(土)、3月12日(土)の合計5回を企画していることが報告された。

⑨渉外・国際活動報告

細田国際交流委員長より、今年度の委員とアドバイザーが提案され、全員が承認された。

⑩研究活動委員会・国際交流委員会に関して

清水理事より国際交流委員会規程、研究活動委員会規程が提案された。国際交流委員会規定については、これまで暫定的に運用されていた国際交流委員会を正式に立ち上げるべく提案されたものであり、承認された。研究活動委員会規定については、現在、大会開催校の負担軽減の観点から大会の企画・運営のあり方の検討・移行期間であることを踏まえ、委員会の設置については継続審議とした。

⑪学会ホームページの運用

清水理事より、現在の学会ホームページの仕様が古いことから、見直しを検討していることが報告された。また更新費用を節約するため、更新内容を取りまとめて月末に1度の更新とすることが報告された。

⑫入退会者の承認

新入会3名(通常会員)、退会2名(通常会員)が承認された。

⑬次回の理事会日程について

12月に開催予定として、後日日程調整することとした。

(清水理事：総務)

## 5. 平成 27-28 年度評議員の紹介

平成 27 年度第 2 回理事会での承認を経て、評議員への就任を依頼し承諾の得られた評議員は以下の通りです。任期は平成 29 年 5 月の大会終了時までとなります。

朝倉 京子	(東北大学大学院医学系研究科)
天田 城介	(中央大学)
池田 光穂	(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)
井上 洋士	(放送大学)
小澤 温	(筑波大学大学院人間総合科学研究科)
片平 冽彦	(健和会臨床・社会薬学研究所)
金子 雅彦	(防衛医科大学校医学教育部)
河口 てる子	(日本赤十字北海道看護大学)
木下 康仁	(立教大学社会学部)
栗岡 幹英	(奈良女子大学文学部)
黒田 浩一郎	(龍谷大学社会学部)
佐藤 哲彦	(関西学院大学社会学部)
杉田 聡	(大分大学医学部看護学科)
杉山 克己	(青森県立保健大学社会福祉学科)
成 元哲	(中京大学)
高山 智子	((独)国立がん研究センター)
武川 正吾	(東京大学大学院人文社会系研究科)
田中 マキ子	(山口県立大学看護栄養学部看護学科)
種田 博之	(産業医科大学)
中川 薫	(首都大学東京大学院人文科学研究科)
中川 輝彦	(熊本大学大学院社会文化科学研究科)
中田 知生	(北星学園大学社会福祉学部)
西田 真寿美	(岡山大学医学部)
野口 裕二	(東京学芸大学教育学部)
林 千冬	(神戸市看護大学)
藤澤 由和	(静岡県立大学経営情報学部)
星 且二	(首都大学東京大学院都市科学研究科)
本郷 正武	(和歌山県立医科大学医学部)
前田 泰樹	(東海大学総合教育センター)
松田 亮三	(立命館大学産業社会学部)
的場 智子	(東洋大学ライフデザイン学部)
宮本 真巳	(亀田医療大学看護学部)
矢原 隆行	(広島国際大学医療福祉学部)
山田 富秋	(松山大学人文学部)
山本 武志	(札幌医科大学医療人育成センター教育開発研究部門)
吉田 澄恵	(東京女子医科大学看護学部)

(清水理事：総務)

## 6. 編集委員会報告

- 1) 今回は、5月の編集委員会が短時間だったため、簡易版での報告といたします。
- 2) 若干遅くなりましたが、『論集』26巻1号を無事発行いたしました。
- 3) 『論集』26巻2号及び、27巻1号の編集も順調です。
- 4) 『論集』24巻1号(2013年7月刊行)までは、CINII上でWEB公開していますが、公開す

るサイトを、NII-ELS(CINII)から、J-STAGE に移行する手続きの関係で、『論集』24 巻 2 号 (2014 年 1 月刊行) のWEB公開が遅れています。

J-STAGE との契約を急いで締結し、年度内には公開できるよう準備を進めたく思っております。

5) 今年度は、「投稿支援講習会」は開催しない予定です。来年度は未定です。

(樫田理事：学会誌編集)

## 7. 学会広報の今後のあり方

これまで学会ホームページやメーリングリストを用いて、会員への情報発信を進めてきましたが、国外や非会員への情報提供や新規会員の獲得といった観点から、ホームページの見直しを検討し始めると共に、twitter アカウントを作成し、10 月より暫定的に運用を始めました。

( [https://twitter.com/jshms\\_PR](https://twitter.com/jshms_PR) ) 内容や方法について、ご意見がございましたら、学会事務局までお知らせください。

(清水理事：総務)

## 8. 編集後記

・ISA 横浜大会にむけ活動していた国際交流委員会が学会誌編集委員会に続く正式な委員会として承認されました。学会の活動もより国際的なものになることが期待されます。

・日本保健医療社会学会ニューズレターは第 92 号からは pdf ファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局 (下記) まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(清水理事・総務)

発行：日本保健医療社会学会

編集：総務担当 (清水準一)

学会事務局：

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

[jshms-office@bunken.co.jp](mailto:jshms-office@bunken.co.jp)

03(5389)0237